

領土問題 オーランド諸島紛争にヒント

【モスクワ20日藤盛一朗】一九五六年日ソ共同宣言から五十年を機に、十九日にモスクワで開かれた日ロフォーラムでは、バルト海のオーランド諸島領有をめぐるフィンランドとスウェーデンの紛争解決に、北方領土問題解決策のヒントがあるとする報告が、日ロ双方の出席者の関心を呼んだ。意見発表を行ったスウェーデンのストックホルム大の池上雅子教授に聞いた。

ストックホルム大

池上雅子教授に聞く

——オーランド諸島を「人口約二万六千人のめぐる紛争解決とは。オーランド諸島は現在、



池上雅子教授

いけがみ・まさこ 東京生まれ。1999年、ストックホルム大助教授、2001年から同大教授兼アジア太平洋研究所所長。専門は紛争解決論、予防外交。

主権の主張 緩和が必要 「四島一括」では進まず

フィンランドに属します。一、九一七のフィンランドの島民には自治を保障し、スウェーデン語を公用語とする③スウェーデンの間で領土問題が生じました。紛争は新諸島を非武装・中立化する。渡戸稲造が事務次長を務める一との調停がなされま



した。三者それぞれが譲歩し、受け入れ可能な妥協策でした」

——北方領土問題への具体的な応用は。

「オーランド・モデルの本質は、当事国双方の主権の主張を和らげる『主権のソフト化』という点にあります。歯舞、色丹島

は、日ソ共同宣言に基づき、日本への返還を図る。同開発にも道を開きま

す」

——いわゆる「2プラス1」論ですね。

「『四島一括』では、交渉は前進しない。八月

にオーランド諸島で開かれた学術会議では、領土問題に取り組んできた日口の学者から現実的な解決策になりうるという見方が示されました」